

南丘小だより

《 徳・・・やさしく 知・・・かしこく 体・・・元気よく 》

平成30年11月8日

学力特集号

北九州市立南丘小学校

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	・漢字の読み書きについては、日々の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返す必要がある。 ・「書くこと」の領域においては正答率が高かったが、「読むこと」においては正答率が低かった。
国語B	・「読むこと」の領域において正答率が低かった。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことが苦手である。
算数A	・「数と計算」及び「数量関係」の領域において、問題の正答率が低く、苦手としている。 ・無回答率は0であった。
算数B	・「数量関係」の領域において、問題の正答率が低かった。 ・記述式の問題形式で無回答率が高かった。
理科	・B区分の「地球」においての問題は、正答率が高かった。 ・「知識・理解」に関する問題は正答率が高かったが、「観察・実験の技能」においては、正答率が低かった。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「授業では、先生から示される課題や学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え自分から取り組んでいたと思いますか。」の問いに、62%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えており、全国平均を下回っている。主体的な学習の仕方について、課題がある。 ・携帯電話やスマートフォンの使用時間、テレビやビデオの視聴時間が長く、家で自分で計画を立てて勉強することとも全国平均を下回っている。家庭学習の充実、家庭生活の過ごし方について課題がある。 ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の問いに、93%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えており、全国平均並みになってきたが、「自分にはよいところがありますか。」の問いに、57%の児童が、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えており、全国平均までに至っていない。学習指導や生徒指導を通して、自尊感情を高めていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・学力・体力向上や自尊感情の向上に関する職員研修を計画的に実施し、全職員で共通理解・共通実践を行う。
- ・学力・体力向上のための特設時間(パワーアップタイム)を設定し、学力の補充や体力の向上を充実させる。
- ・アシストシートや基礎学力定着支援システム「学力サポートシステム」を活用し、学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「生活がんばり表」で、起床・就寝時刻、家庭学習の時間等の調査をし、その結果を使って児童や保護者に啓発を行う。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」や「南小倉中学校区家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の指導・支援を行う。
- ・各学級の家庭学習マイスター賞を決め、展示を行い、児童への啓発を行う。